

実施学科課程表(24生以降)

学部専門基礎科目 (令和7年度)

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択	受講可能年	教員免許該	ページ	担当教員
学部専門基礎科目	サステナビリティのための経済学入門	2	7	前	必修	1年以上		1	石井・安永・宇野・小笠原・木村・柴田・高見・デイ・小野・海・村山・中本・非(高山)・非(久保)
	ミクロ経済学	2	7	後	2科目4単位以上選択必修	1年以上	公民	2	林
	マクロ経済学	2	7	前		2年以上	公民	3	小野
	初級政治経済学	2	7	前		1年以上	公民	4	海・田村
	経営学入門	2	7	前	2科目4単位以上選択必修	1年以上		5	于・小宮山・仲本
	会計学入門	2	7	前		1年以上	商業	6	山根・越智
	法学入門	2	7	後		1年以上	公民	7	亀岡, 田代
	地域学入門	2	7	後		1年以上		8	包・高島・山浦・甲斐・宮町・城戸・美谷

メジャー共通科目

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択	受講可能年	該教員免許目許	備考	担当教員
メジャー共通	インターンシップA	1	8	前	選択	3年以上			小笠原
	インターンシップB	2	8	前	選択	3年以上			小笠原

※メジャー共通科目は、どのメジャーにも所属しない専門教育科目の「選択」となる。

専門教育セミナー科目

区分	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択	必修	受講可能年次	コース
基礎	基礎経済分析セミナー	2	7	後	所属コースのセミナーを1科目選択必修		1年以上	経済分析・政策
	IBP基礎セミナー	2	7	後			1年以上	IBP
	消費税法セミナー	2	7	後			1年以上	会計
	ソーシャルイノベーション・ワークショップⅠ	2	7	後			1年以上	社会イノベーション
	コモンズのサステナビリティ	2	7	後			1年以上	生活・仕事創造
	地域研究基礎セミナー	2	7	後			1年以上	地域経営・法
中級Ⅰ	経済分析セミナーⅠ	2	7	前	所属コースのセミナーを1科目選択必修		2年以上	経済分析・政策
	IBP中級セミナーⅠ	2	7	前			2年以上	IBP
	簿記セミナーⅠ	2	7	前			2年以上	会計
	中級セミナーⅠ	2	7	前			2年以上	社会イノベーション
	地域つなぎ実践ワークショップ	2	7	前			2年以上	生活・仕事創造
	地域研究中級セミナー	2	7	前			2年以上	地域経営・法
中級Ⅱ	中級セミナーⅡ	2	7	後	所属コースのセミナーを1科目選択必修		2年以上	
	経済分析セミナーⅡ	2	7	後			2年以上	経済分析・政策
	IBP中級セミナーⅡ	2	7	後			2年以上	IBP
	簿記セミナーⅡ	2	7	後			2年以上	会計
	ソーシャルイノベーション・ワークショップⅡ	2	7	後			2年以上	社会イノベーション
	サステナビリティと生活・仕事創造	2	7	後			2年以上	生活・仕事創造
	地域調査セミナー	2	7	後			2年以上	地域経営・法
	マイノリティと法セミナー	2	7	後			2年以上	地域経営・法
応用	経済分析展開セミナー	2	8	後	2単位選択必修		3年以上	経済分析・政策
	IBPプレゼンテーションセミナー	2	8	後			3年以上	IBP
	会計フォーラムⅠ	1	8	後			3年以上	会計
	会計フォーラムⅡ	1	9	後			4年以上	会計
	社会イノベーションフォーラム	2	8	後			3年以上	社会イノベーション
	コレクティブ創造セミナー	2	8	後			3年以上	生活・仕事創造
	生活・仕事創造プレゼンテーションセミナー	2	9	後			4年以上	生活・仕事創造
	地域経営・法実践セミナー	2	8	後			3年以上	地域経営・法

セミナー・演習のシラバスは、別途Moodle等で掲示します。

卒論・演習等

学科目	授業科目	単位	開講年	実施時期	必修・選択	必修	受講可能年次	旧カリ科目名
卒業論文・研究	演習Ⅰ	2	8	前	必修		3年以上	演習Ⅰ
	演習Ⅱ	2	8	後	必修			演習Ⅱ
	演習Ⅲ	2	9	前	必修		4年以上	演習Ⅲ
	演習Ⅳ	2	9	後	必修			演習Ⅳ
	卒業論文・研究	6	9	通	必修			卒業論文

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K51IA101		サステナビリティのための経済学入門 (Introduction to Economics and Sustainability)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
必修		2	1, 2, 3, 4	経済学部	前期	木1	日本語	英語	複数(共同)、オムニバス、クラス分け								
担当教員	氏名 石井 まこと 他経済メジャーの教員 E-mail mak@oita-u.ac.jp 内線 7698																
授業の概要	経済学部すべての学生を対象として、高校「政治・経済」で学修した内容から、大学専門教育への橋渡しを目標とし、経済学部における学修の基礎となる経済学の考え方、及び経済理論の政策への応用などについて学びます。その上で、サステナビリティ(持続可能性)と経済学の関係について考えるテーマを毎回提示し、経済学的思考の基礎力を身につけます。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	経済学の考え方を説明できる。							○									
目標2	経済理論の政策への応用例について説明できる。							○									
目標3	資本主義の特徴、国民所得と景気、市場の役割、金融・財政のしくみの基礎事項を説明できる。							○									
目標4	労働問題、社会保障、日本・世界経済の歩み、国際経済について基礎事項を説明できる。							○									
目標5	サステナビリティと経済学の関係について説明できる。							○									
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								10									
授業の内容																	
1	経済学と社会・生活																
2	資本主義の一般的傾向																
3	市場経済のしくみ																
4	国民所得と景気																
5	経済統計の見方・考え方																
6	財政のしくみとはたらき																
7	金融のしくみとはたらき																
8	世界経済の歩み																
9	日本経済の歩み																
10	労働問題・社会保障制度のしくみ																
11	公害と環境保全																
12	国際貿易と世界経済																
13	地域主義の動き																
14	発展途上国と国際問題																
15	まとめ																
フィードバックグループ	A:知識の定着・確認	☐ 講義時のレポート・試験を実施し、内容についての理解を深めてもらいます。					エ	そ									
	B:意見の表現・交換	☐					夫	の									
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	高校「政治・経済」の教科書、またはそれと同等の内容の資料を事前に読んでおく(25h)。															
	事後学修	配布資料等を用いて講義内容を復習する(20h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	教科書は使用しません。随時資料を配付します。																
参考書	高校「政治・経済」の教科書																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	授業回ごとのテストまたはレポート						100%	○	○	○	○	○					
注意事項	講義中の私語・携帯電話は厳禁です。																
備考	内容については変更の可能性があります。また、受講生を2クラスに分けて同時刻に開講するため、クラスによって授業の内容の順序が若干異なることがあります。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K521A201		ミクロ経済学 (Microeconomics)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態							
選択		2	1, 2, 3, 4	経済学部	後期	木3	日本語			単独							
担当教員	氏名 林 勇貴 E-mail yhayashi@oita-u.ac.jp 内線 7705																
授業の概要	現実に行っている様々な問題は「経済学」を用いて考えることができます。「現実」を理解し、分析するには、複雑な「現実」の世界を単純な「理論」の世界へ置き換える作業が必要です。このときに基礎的な理論となるのが、ミクロ経済学です。この講義では、ミクロ経済学の基本である消費者や企業の行動を理解することをねらいとします。																
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7	
目標1	市場という概念について具体的なイメージを形成できる。							○									
目標2	需要と供給の理論を理解し、様々な事象について説明ができる。							○									
目標3	価格や取引量の決定など、消費者や企業の行動を理論的に説明できる。							○									
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度 (計10)								10									
授業の内容																	
1	イントロダクションーミクロ経済学とはー																
2	経済学の原則																
3	需要と供給 (1)ー需要曲線ー																
4	需要と供給 (2)ー供給曲線ー																
5	需要と供給 (3)ー価格と取引量の決定ー																
6	まとめ																
7	価格弾力性																
8	消費者余剰																
9	生産者余剰																
10	需要と供給と政府の政策																
11	まとめ																
12	企業の行動 (1)ー生産の費用ー																
13	企業の行動 (2)ー利潤最大化行動ー																
14	消費者選択の理論																
15	まとめ																
フィードバック	A:知識の定着・確認	授業の最後にレポートや課題に取り組む時間を設ける。					エ	そ									
	B:意見の表現・交換						夫										
	C:応用志向						他										
	D:知識の活用・創造						の										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等を必要に応じて予習する (15h)															
	事後学修	配付資料や参考文献等を用いて復習する (15h) 他の授業と本講義の関連について整理する (15h)															
	想定時間合計	45															
教科書	特になし																
参考書	N・グレゴリー・マンキュー (2019) 『マンキュー経済学I ミクロ編』、東洋経済新報社。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	定期試験						70%										
	小テスト・レポート等						30%										
注意事項																	
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K522A202		マクロ経済学 (Macroeconomics)					学部専門基礎科目 門基礎科目		学部専	対面							
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択	2	2, 3, 4	経済学部	前期	火I	日本語		単独									
担当教員	氏名 小野宏																
	E-mail onohiro@oita-u.ac.jp 内線 7710																
授業の概要	はじめて経済学を学ぶ学生が、経済学、特にマクロ経済学の基礎的な知識や考え方を理解し、専門分野を学習するときに経済学を適用できる基礎力を修得することを目標とします。また、現実の経済問題について論理的に考える力をつけることをねらいとします。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7			
目標1	マクロ経済学の基本的な概念を説明できる。							○									
目標2	乗数効果を説明できる。							○									
目標3	財・サービス市場における需要と供給を説明できる。							○									
目標4	資産(貨幣)市場における需要と供給を説明できる。							○									
目標5	経済モデルに基づき、財政金融政策の効果について説明できる。							○									
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)								10									
授業の内容																	
1	マクロ経済学とは																
2	マクロ経済学のとらえ方(1) 貿易・為替レートとマクロ経済の波及効果																
3	マクロ経済学のとらえ方(2) GDPとは																
4	マクロ経済における需要と供給																
5	財・サービス市場：有効需要と乗数メカニズム																
6	資産(貨幣)市場(1) 貨幣供給と信用乗数																
7	資産(貨幣)市場(2) 貨幣需要と利子率																
8	まとめ(1)																
9	財政政策の基本構造(1) 乗数																
10	財政政策の基本構造(2) 公債の負担の問題																
11	財政・金融政策とマクロ経済：政策目標・政策手段と貿易問題																
12	財政・金融政策のメカニズム(1) 金融政策と有効需要																
13	財政・金融政策のメカニズム(2) 財政政策とクラウディング・アウト効果																
14	財政・金融政策のメカニズム(3) IS-LM分析と財政・金融政策																
15	まとめ(2)																
ラーニングイングループ	A:知識の定着・確認	○	レポート課題によって授業内容を確認し、自らの考えをまとめます。					エ そ 夫 の 他 の	各種外部試験(経済学検定試験や公務員試験など)を元にした演習問題を解いてもらうことがあります。								
	B:意見の表現・交換																
	C:応用志向																
	D:知識の活用・創造																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	教科書の内容を確認すること(15h)。 マクロ経済学の考え方を意識しながら日本経済新聞を読むこと(5h)。															
	事後学修	講義を基にした教科書や配布資料の振り返り(25h)。															
	想定時間合計	45															
教科書	「マクロ経済学 第3版」伊藤元重著(日本評論社), 2024年, ISBN 978-4535541078																
参考書	『マクロ経済学・入門 第6版』福田慎一 照山博司著(有斐閣アルマ), 2023年, ISBN 978-4641222243。 『マンキュー マクロ経済学 入門篇 第5版』N.G. マンキュー著(東洋経済新報社), 2024年, ISBN 978-4492315583 など。																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末試験						70%	○	○	○	○	○					
	小テスト及びレポート課題						30%	○	○	○	○	○					
注意事項	詳細な注意事項等は、第1回目の講義で説明します。																
備考	連絡等にMoodleを活用します。定期的に確認してください。																
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式								
K521A203		初級政治経済学 (Introduction to the Political Economy)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面								
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態								
選択必修		2	I	経	前期	木3	日本語		複数(共同)								
担当教員	氏名 海 大汎・田村 哲也 E-mail dbhae@oita-u.ac.jp / ttamura@oita-u.ac.jp 内線 7681 / 7706																
授業の概要	・テーマ：市場経済と資本主義 ・概要：本講義は、政治経済学の基礎知識を学修するものとして、市場経済と資本主義の違いおよび資本主義社会の特殊歴史性について理解を深めることを目的とする。																
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)		I	2	3	4	5	6	7		
目標1	資本主義と市場経済の違いを説明できる。									○	○						
目標2	資本主義社会の特殊歴史性を理解できる。									○	○						
目標3	「政治経済学Ⅰ」及び「政治経済学Ⅱ」の学修に必要な基礎知識を身につける。									○	○	○					
目標4																	
目標5																	
目標6																	
目標7																	
目標8																	
目標9																	
目標10																	
各DPへの関連度(計10)									3		3	3	I				
授業の内容																	
1	〔前半クラス〕オリエンテーション																
2	資本主義の歴史(1)資本主義以前の経済システム																
3	資本主義の歴史(2)資本主義の成立																
4	資本主義の歴史(3)産業革命からフォーディズム																
5	資本主義について考えた思想家たち																
6	さまざまな国の資本主義																
7	グローバル資本主義																
8	資本主義の現在と未来																
9	〔後半クラス〕交換とは何か																
10	物々交換と商品交換																
11	共同体と市場																
12	モノと商品																
13	価値と価格																
14	労働力商品																
15	市場経済と資本主義																
フィードバックシート	A:知識の定着・確認	☐ ・小テストやQ&A、講読、演習課題を実施することで、授業内容について理解を深めてもらいます。					エ										
	B:意見の表現・交換	☐					そ										
	C:応用志向						夫										
	D:知識の活用・創造	☐					他										
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	[15h] 次回の予定箇所を読み、分からないことや疑問点をまとめる。															
	事後学修	[30h] 講義の内容を参考にして自分の思考や問題意識を深める。															
	想定時間合計	45															
教科書	・講義資料を適宜配布します。																
参考書	・永谷清(著)『市場経済という妖怪ー『資本論』の挑戦と現代』(2013)社会評論社。・伊藤誠(著)『入門 資本主義経済』(2018)平凡社、・ユルゲン・コッカ(山井敏章訳)『資本主義の歴史一起源・拡大・現在』(2018)人文書院、・中谷武ほか『資本主義がわかる経済学』(2019)大月書店																
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	毎回の事後課題						60%	○	○	○							
	中間レポート						40%	○	○	○							
注意事項	・欠席や遅刻は減点対象になります。																
備考																	
リンク																	
	URL																

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式									
K52IA207		経営学入門 (Introduction to Management)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面									
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語	担当形態									
選択必修		2	I	経済学部	前期	火3	日本語		複数(共同)、オムニバス、クラス分け									
担当教員	氏名 仲本 大輔・于 松平・小宮山 知成 E-mail daichan@oita-u.ac.jp (仲本)・yusongping@oita-u.ac.jp (于)・ @oita-u.ac.jp (小宮山) 内線 7714 (仲本)・7711 (于)・ (小宮山)																	
授業の概要	初めて経営学を学ぶ学生の皆さんに対して、専門基礎科目の位置づけを意識して講義を行います。また、経営学の諸分野への橋渡しとしての役割を考慮して、幅広い講義内容を提供します。経営学の基礎知識を理解できるようにします。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)				1	2	3	4	5	6	7
目標1	経営学の各分野における基礎的な専門用語の意味や原理を理解・説明できる。							○										
目標2	経営学の基礎的知識を理解し、説明できる。							○										
目標3	新聞・雑誌等の経営学用語を理解し、説明できる。							○										
目標4																		
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								10										
授業の内容																		
1	A教室・B教室：イントロダクション (どちらか片方の教室に受講生全員を集めます)																	
2	A教室・B教室：外部講師による講義、講演 (どちらか片方の教室に受講生全員を集めます)																	
3	A教室：イノベーションと経営① (担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎① (担当：于)																	
4	A教室：イノベーションと経営② (担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎② (担当：于)																	
5	A教室：イノベーションと経営③ (担当：仲本) B教室：人的資源管理の基礎③ (担当：于)																	
6	A教室：人的資源管理の基礎① (担当：于) B教室：イノベーションと経営① (担当：仲本)																	
7	A教室：人的資源管理の基礎② (担当：于) B教室：イノベーションと経営② (担当：仲本)																	
8	A教室：人的資源管理の基礎③ (担当：于) B教室：イノベーションと経営③ (担当：仲本)																	
9	A教室・B教室：中間試験																	
10	A教室：企業の価値創造活動 (担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎① (担当：小宮山)																	
11	A教室：モノづくり経営 (担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎② (担当：小宮山)																	
12	A教室：価値づくり経営 (担当：呉) B教室：経営戦略論の基礎③ (担当：小宮山)																	
13	A教室：経営戦略論の基礎① (担当：小宮山) B教室：企業の価値創造活動																	
14	A教室：経営戦略論の基礎② (担当：小宮山) B教室：モノづくり経営																	
15	A教室：経営戦略論の基礎③ (担当：小宮山) B教室：価値づくり経営																	
フィードバック	A:知識の定着・確認	○	授業で紹介する理論をよりイメージしやすくするため、企業経営に関するトピックを適宜紹介します。また、学生からの質問を受ける機会を設け、その内容についてフィードバックすることで、他の学生の意見を聞けるようにする予定です。					エ そ 夫 の 他 の	講義資料等をMoodleに公開し、学習を促進します。なお、資料を印刷したものを配布することもあります。詳細は、各担当教員の初回講義にて説明があります。									
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向	○																
	D:知識の活用・創造	○																
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する (15h)。																
	事後学修	資料を用いて、講義の復習を行い (15h)、講義において紹介した経営学系の知識を実際の生活場面と関連させて捉える (15h)。																
	想定時間合計	45																
教科書	講義資料を配布します。																	
参考書	講義の進捗度に応じて適宜紹介します。																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	
	中間試験 前半担当教員2名 各25%						50%	○	○	○								
	期末試験 後半担当教員2名 各25%						50%	○	○	○								
中間試験、期末試験の両方を受験しなければ成績がつきません。また、毎出席をとります。3分の2以上出席しなければ試験の受験資格を失うことになります。なお、出席																		
注意事項	私語等授業の進行の妨げになる学生の受講は認めません。																	
備考																		
リンク																		
	URL																	
担当教員の実務経験の有無	○																	
教員の実務経験	エネルギー・自動車・金融産業による官民事業会社創設・運営の経験 (小宮山)																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)						区分・【新主題】/ (分野)			授業形式							
K521A205		法学入門 (Introduction to Juris prudence)						学部専門基礎科目 学部専門基礎科目			対面							
必修選択		単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語	その他に使用する言語		担当形態								
選択必修		2	1、2、3、4	経	後期	木1	日本語			オムニバス								
担当教員	氏名 田代 浩・亀岡鉦平 E-mail tashiro-hiroshi@oita-u.ac.jp・kkameoka@oita-u.ac.jp 内線 6752・7703																	
授業の概要	法学関係の科目を学ぶための導入として、法学にどのようなヴァリエーションがあり、また法学にどのような特徴があるのか理解しつつ、公法・私法それぞれの分野の基礎的な事項について学ぶことをねらいとします。また個別には授業が開講されていない国際法・家族法・民事訴訟法についても触れる予定です。																	
具体的な到達目標								DP等の対応(別表参照)		1	2	3	4	5	6	7		
目標1	個別法を学ぶにあたって必要な法学の基礎的知識を習得する。							○										
目標2	論理的な思考に基づいて意見を表明することができる。										○							
目標3	疑問を発見して、自分で解決することができる。										○							
目標4	法律に関する情報を調べることができる。							○										
目標5																		
目標6																		
目標7																		
目標8																		
目標9																		
目標10																		
各DPへの関連度 (計10)								5			5							
授業の内容																		
1	はじめに、法の機能、法の形式・分類・構造																	
2	法の制定、法の適用と解釈																	
3	法の担い手、法の適用機関																	
4	憲法の基礎																	
5	行政法の基礎																	
6	刑事法（刑法・刑事訴訟法）の基礎																	
7	国際法の基礎																	
8	裁判員制度																	
9	法と社会の歴史、近代における西洋法の継受																	
10	民法（財産法）の基礎 1																	
11	民法（財産法）の基礎 2																	
12	民法（財産法）の基礎 3																	
13	民法（家族法）の基礎																	
14	労働法の基礎																	
	民事訴訟法の基礎																	
	A:知識の定着・確認		○		授業内容に関する参考文献を適宜紹介しますので、自主的な調べ学習と読書を通じて、授業内容の定着を図ってください。					エ そ 夫 の 他 の								
	B:意見の表現・交換																	
	C:応用志向																	
	D:知識の活用・創造																	
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		予習（教科書の通読、疑問点の発見）：15時間															
	事後学修		復習（疑問点の解消など）：30時間															
	想定時間合計		45															
教科書	教科書は、神野潔他編『法学概説』（弘文堂、2022年、ISBN 9784335358821）です。 また、六法も持参してください。指定はしませんが、『法学六法'26』（信山社）や『ポケット六法令和8年版 』（有斐閣）（いずれも2025年9月末頃発売予定）等が標準的です。 ※教科書販売期間中に購入して下さい。																	
参考書	・高橋和之他編『法律学小辞典（第6版）』（有斐閣、2025年、ISBN 9784641000315） ・堀口悟郎他編『図録法学入門』（弘文堂、2024年、ISBN 9784335359613） ・道垣内弘人『リーガルベイス民法入門（第5版）』（日経BP、2024年、ISBN 9784296118397） ・横田明美他『法学学習Q&A』（有斐閣、2019年、ISBN 9784641126091）																	
成績評価の方法及び評価割合	評価方法							割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	期末テスト（筆記）							100%	○	○	○	○						
注意事項																		
備考	両担当教員が内容を分担して講義します。したがって、クラスにより上記の授業内容の順番は異なります。「地域経営・法コース」のコース必修科目です。																	
リンク																		
	URL																	
担当教員の実務経験の有無	○																	
教員の実務経験	田代は、財務省・国税庁等の行政機関で20年程度の実務経験を有する。																	

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)		授業形式										
K521A206		地域学入門 (Introduction to Regional Studies)					学部専門基礎科目 学部専門基礎科目		対面										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	主に使用する言語		その他に使用する言語		担当形態									
選択必修	2	I	経	後期	火3	日本語				オムニバス									
担当教員	氏名 宮町 良広・甲斐 智大・城戸 照子・高島 拓哉・包 聯群・美谷 薫・山浦 陽一 E-mail ymiya@oita-u.ac.jp (宮町), tkido@oita-u.ac.jp (城戸), tataka@oita-u.ac.jp (高島), blianqun@oita-u.ac.jp (包), mitani@oita-u.ac.jp (美谷), yamaur@oita-u.ac.jp (山浦) 内線 7684 (宮町), 7685 (甲斐), 7946 (城戸), 7678 (高島), 7724 (包), 7712 (美谷), 7688 (山浦)																		
授業の概要	経済・社会を学習・研究する際、「地域」という切り口はきわめて有効なものの1つである。本授業では、経済学部生が「地域」に関わる学習・研究を進める際に、基本として修得すべき知識や考え方、および学習方法について教授する。地域学に対する興味や関心をはぐくみ、「地域学はおもしろいな。自分もやってみよう」と受講生が思うようになることを目的とする。 各担当教員がリレー方式で講義を担当し、7人で合計15回の授業を行う。																		
具体的な到達目標							DP等の対応(別表参照)					1	2	3	4	5	6	7	
目標1	地域の経済・社会・文化をとらえるための基本的考え方を理解し、説明できる。											○							
目標2	地域学のための基本的な手法やスキルを身につけ、レポート等で文章表現できる。												○						
目標3																			
目標4																			
目標5																			
目標6																			
目標7																			
目標8																			
目標9																			
目標10																			
各DPへの関連度(計10)												5	5						
授業の内容																			
1	地域学は地域への好奇心から始まる(宮町担当)																		
2	地域学と地域活性化(宮町担当)																		
3	多様な働き方と地域(1)(甲斐担当)																		
4	多様な働き方と地域(2)(甲斐担当)																		
5	地域における多文化共生(1)(城戸担当)																		
6	地域における多文化共生(2)(城戸担当)																		
7	地域社会における社会と空間(1)(高島担当)																		
8	地域社会における社会と空間(2)(高島担当)																		
9	地域における多言語景観と多言語サービス(1)(包担当)																		
10	地域における多言語景観と多言語サービス(2)(包担当)																		
11	大学で地域を調査・研究する視点と手法(美谷担当)																		
12	地理学における地域理解の手法(1)(美谷担当)																		
13	地理学における地域理解の手法(2)(美谷担当)																		
14	地域としての農村(1)(山浦担当)																		
15	地域としての農村(2)(山浦担当)																		
フィードバック	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造											☐ 次の項目の中から担当者が授業方式に合わせて実施する。 ☐ 質疑応答と全体共有、授業終了前のミニッツペーパー、アンケート		エ そ 夫 の 他 の	関連文献や参考Webサイトの情報提供による調べ学習				
授業時間外学修の内容と想定時間	準備学修		各担当者が指示する(資料読解など、計15h)。																
	事後学修		各担当者が指示する(レポート作成など、計30h)。																
	想定時間合計		45																
教科書	各担当者が指示する。各自でのプリントが必要な場合がある。																		
参考書	各担当者が指示する。																		
成績評価の方法及び評価割合	評価方法						割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10		
	レポート(3課題)						100%	○	○										
各担当者が示した7つのレポート課題のうちから、3つの課題を選ぶ。分量は1課題につき1000字程度とする。合計得点6割以上で合格。指定の表紙を利用し、使用し																			
注意事項	本授業は定刻開始、定刻終了します。受講生は授業開始前に着席してください。また途中退室を禁じます。																		
備考	担当者の順番は変わります。対面(2教室に分割)で実施します。不明な点は気軽に質問してください。各担当者のオフィスアワーを活用してください。																		
リンク																			
	URL																		